

地域・離島歯科医療実習 レポート

学籍番号： 4313100493 氏名： 山下祐典

実習先： 黒島 実習期間：平成30年4月20日～4月22日

1. 自然環境

黒島（くろしま）は、薩南諸島北部に位置する有人島である。人口は171人、世帯数は98世帯。竹島、硫黄島および周辺の小島や岩礁とあわせて鹿児島郡三島村を構成する。東岸の大里と西岸の片泊の2つの集落から構成されていて、三島村の主要3島の中では面積・人口ともに最大である。全体に起伏が激しく外周は崖で、平地らしい平地はほとんどない。居住地は密集しておらず、散在していた。鹿児島港から大里・片泊の各港へ、フェリー「みしま」が週3便運航している。

2. 社会的背景

主産業は農業であるが、島に小中学校があるため、そこに勤めている教職員も存在する。農業においては畜産が盛んである。島には100haあまりの農用地があるが、うち9割は放牧場が占めている。急斜面に放し飼いにされていた。島内産のサツマイモ「紅乙女」は希少な芋焼酎「みしま村」の原料に用いられており、近いうちに焼酎工場が大里地区に完成する予定との話を聞いた。

宿泊施設として民宿が4件存在するが、観光客の姿はほとんど見かけなかった。

人口構成については男女の差はあまりみられないが、記録に残っている年度からは人口は減少し続けており、現在は昭和35年の4分の1程度になっている。

区分	世帯数	人口		
		総数	男	女
昭和35年	384	1,363	656	707
//40	281	874	387	487
//50	235	628	289	339
//60	271	552	266	286
//62	264	556	261	295
平成元年	251	509	241	268
//3	252	504	236	268
//7	238	475	219	256
//9	230	461	220	241
//15	218	417	196	221
平成19年12月末	213	406	186	220
平成21年12月末	209	391	181	210
平成23年12月末	202	371	170	201
平成27年12月末	213	388	188	200
平成29年12月末	205	384	189	195

3. 住民の生活

民俗芸能「なぎなた踊り」、「矢踊り」などが伝わる。一連の踊りは「八朔踊り」として村の無形文化財指定を受ける。その他、片泊地区の「盆踊り」も村の無形文化財に指定されている。

また旧暦の6月23日に島内の15歳から16歳までの女性が祠の掃除をして歌と踊りを奉納する射場どんと呼ばれる行事がある。

黒島地区には「黒島平和公園」がある。太平洋戦争中に鹿児島県大隅半島の基地から特攻隊員として出撃し、黒島に不時着した元特攻隊の兵士の像が存在している。戦争で散った友への思いと平和への祈りがこめられ、毎年慰霊祭が開かれている。

4. 医療供給体制

今回の黒島の黒島地区での巡回診療は「大里ふれあいセンター」にて行った。そこには小児のための保育施設や医科の巡回診療の予定など、島民にとってなくてはならない要素が多くみられた。歯科の診療用チェアが1台あり、そこで学校検診を行った。今回は重度の全身疾患をもつ患者はみられなかったが、少ない機会での治療を終わらせる確かな技術と素早さが求められる場所だった。

実習概要

日付	内容
4/20	大里ふれあいセンターにて学校検診の介助
4/21	大里ふれあいセンター及び巡回診療車にて齲蝕治療、歯内治療の介助

振り返り記録（実習を通じて学んだこと、気付いたこと、疑問に思ったこと、など。）

今回同行した島は比較的大きな島である「黒島」であったが、それでも普通のあらゆる器具や生活用品がそろっている普通の病院での実習からすると不便さを感じた。また、今回同行した先生方は普段それぞれの専門科にて診療を行っているが、島では自分の専門以外の診療も行わなければならない。この点で、視野の狭い、自分の専門のことだけでできればいいという考えではなく、ある程度のことは広くできてその上で自分の専門性を高める考え方でなければならないと感じた。また、歯科医院が存在しない島であることから、普段なら数回に分ける処置、例えば多数歯に及ぶ齲蝕なども一回の治療で終わらせなければならないため、迅速に次の作業を考えながら診療を行っていく能力が必要不可欠だと思う。